

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年7月)

～感染第7波の急拡大で、現状判断は4か月ぶりの50割れ～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断が39.2と前月比で2か月連続の低下となった。現状判断が、好不調の目安となる50を下回るのは4か月ぶり。先行き判断も42.4と2か月連続の低下となっている。
- 足元の景気については、新型コロナウイルスの感染第7波の影響を大きく受けている。各地で過去最多の感染者数を記録する中、外食や旅行の動きが大きく減少、都心部を中心とした人流の減少により、百貨店などの業種にも影響が出ている。一部では、感染拡大後も客足の変化は軽微といった声もあるが、全体としては大きな影響がみられる。
- 一方、かねてからの物価の上昇や部品不足による悪影響も続いている。物価の上昇が消費者心理の低下につながる中、仕入コストの上昇分を販売価格に転嫁する動きは難航する傾向にある。感染第7波の影響もあいまって、収益の悪化が進んでいるといった声は多い。
- 先行きについても、新型コロナの感染第7波の収束時期が不透明な中、経営環境の悪化を懸念する声は多い。円安やウクライナ危機も継続するとの見方から、物価の上昇に対する警戒も引き続き強い。その結果、コロナ禍やインフレによる消費マインドの低下や客足の減少懸念に加え、コストの上昇による企業収益の悪化を警戒する声は多い。
- 入国規制が緩和されたインバウンドの動きについては、まだ限定的にとどまり、先行きに期待する声も少ない。そもそも日本国内での感染がもう少し落ち着く必要があるほか、中国での感染も収まらなければ、本格的な回復は期待しにくい状況といえよう。

「感染第7波」関連のコメント(現状判断、家計・企業関連)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(特選品担当)	・7月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したが、客の購買意欲や来客数にはそれほど影響がないと感じる。高額品の動きも相変わらず順調である。
		百貨店(服飾品担当)	・7月に入り、例年はセールが中心の時期であるが、コロナ禍で変化が生じている。安くなったから買うという動きが徐々に減り、良い物であれば定価でも買い、セールにならない商品が欲しいという行動が顕著になっている。その結果、ラグジュアリー関連のバッグや宝飾品、時計などの購買意欲は高く、円安による値上げもあって、単価アップにつながっている。いずれの商品も2019年の実績を超えており、国内客の消費がインバウンドの実績を上回って好調となっている。さらに、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるなかでも、以前ほど客足に影響は出ておらず、今後にも期待が持てる。
		スーパー(経営者)	・新型コロナウイルスの感染第7波により、家庭での内食や家飲み傾向が復活してきた。結果として、直近は軟調であった酒類やおつまみなどの売上が急回復している。また、猛暑も追い風となり、飲料やアイスクリームなどの売上也急伸している。
		スーパー(企画担当)	・新型コロナウイルスの感染第7波により、家庭での内食需要が増加している。原料や製品のコスト上昇に伴う価格転嫁を最小限に抑え、薄利でも競合店に負けない価格設定を行った。その結果、販売数が伸び、売上、利益を最大限に獲得できている。
		その他専門店[ドラッグストア](店員)	・新型コロナウイルスの感染第7波の発生で外出やレジャーが減る一方、当店で買物は増えている。病院で受診できない人が薬を買いに来ており、1人当たりの客単価も上がっている。
		その他小売[インターネット通販](オペレーター)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、マスクのほか、しばらく注文のなかったパルスオキシメーターの注文が増えている。

やや良くなっている	観光型旅館（経営者）	・少し良くなってきているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が日々増えており、自分自身が感染したり、濃厚接触者になるなど、キャンセルが相次いでいる。先週からかなり影響が目立ってきている。
	観光型旅館（団体役員）	・夏休みに入り、海水浴に来る客が増えているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でキャンセルが出ている。感染が収束しなければ、更なるキャンセルの増加が懸念される。
	都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、行動が制限されていないため、キャンセルがほとんど出していない。
	都市型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、観光需要は増えている。感染症対策を行いながらの旅行にも免疫が付き、人流が増えている。
	タクシー運転手	・最近暑い日が続いているため、客がいろいろな場所で手を挙げたり、乗り場では近距離で利用する客も多く、順番待ちが発生している。新型コロナウイルスの感染は拡大しているが、外出する人も増えている。
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染再拡大にもかかわらず、人流は特に減っていない。配車アプリの利用もあって客の乗車機会は増え、営業収入は前月比で1～2割増加している。
変わらない	一般小売店〔野菜〕（店長）	・物価の上昇と新型コロナウイルスの感染拡大の影響がみられる。飲食関連の取引先にも客が戻ってきていたが、また厳しくなっている。
	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・前年比では好調であるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えているため、再び悪化することを考えると不安である。
	百貨店（企画担当）	・現時点で売上は目標比、前年比共にプラスで推移している。その一方、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、来客数や店の前の通行量には影響が出ている。また、富裕層が中心の外商売上は好調であるが、外商を除く国内客の売上は、目標を下回る状況となっている。
	百貨店（マネージャー）	・明らかに3か月前と比べて良くなっていたが、直近の新型コロナウイルスの感染第7波により、急激に状況が変わってきた。来街者の激減に伴い、来客数が減少しているほか、店内や店外での販促やイベントの来場にも急なキャンセルが相次ぐなど、外出自体を控えるといった行動変容がみられる。
	百貨店（販売推進担当）	・バーゲンセール商戦が始まったが、特に衣料品はメーカーの在庫圧縮や海外での生産遅延、製造中止などが重なり、商材不足で思うような売上が確保できていない。一方、今月中旬以降は新型コロナウイルスの感染第7波が拡大するにつれて、やや動きが鈍くなっているが、第6波までの自粛状況に比べると影響は少ない。
	スーパー（店長）	・商品の値上げと、新型コロナウイルスの感染再拡大の同時進行という複雑な状況が続いているが、大きな変化はないと感じる。
	スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増えたほか、夏休みに入ったことも重なり、徐々に家庭での利用商品に需要がシフトしている。総菜や素材関連の商品の販売量が増えつつあるが、値上げ商品も多いことから、節約志向が強まる恐れもある。
	スーパー（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波が発生したが、多少は外食から内食へのシフトはみられるものの、前年の行動制限に比べると影響は小さい。客の様子にも、買いだめのようなパニックはみられず、比較的落ち着いている。
	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が、大都市で増加している。来客数は変わらないが、平均単価が5%下がり、売上が減少している。
	コンビニ（経営者）	・ようやくコロナ禍が落ち着くとみられたが、まさかの感染第7波が始まった。今後の経済への影響が心配である。
	コンビニ（店員）	・特に大きな変化のない1か月であった。新型コロナウイルスの感染拡大によって来客数が減ることもなく、旅行者らしい客の来店も続いている。猛暑のなかでも、コンビニは利用してもらえている。
	コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えたが、感染が落ち着いていた時期とさほど変わらず、客は来店している。
	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が増え、出勤者が減っているため、稼働率が下がっている。
	都市型ホテル（総務担当）	・府民割が終了となったため、レストランの客が減少した。さらに、新型コロナウイルスの急激な感染拡大で宴会のキャンセルが増加し、新規受注も伸び悩んでいる。
	都市型ホテル（販売促進担当）	・大きくは変わっていないが、宿泊稼働率が久しぶりに50%台から60%台に上昇した。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えても、最近のビジネス客の動きに大きな変化はない。ただし、夏休みに入り、土曜日などに増加を見込んでいた観光客はそれほど増えず、全体では微増にとどまっている。
	旅行代理店（支店長）	・今年は3年ぶりに行動制限のない夏休みである。県民割や全国割への期待もあり、客の夏休みの旅行マインドは好調で、受注にもつながっていた。ただし、ここへきて新型コロナウイルスの感染第7波が発生し、申込みのキャンセルは少ないものの、新規の受注が一気に止まっている。
	タクシー運転手	・梅雨も明けて、最も暑い時期は昼間の気温が30度を超えるため、タクシーの利用率は上がっている。ただし、新型コロナウイルスの感染が拡大し、夜の会食ムードが大きく低下したため、乗客数は減っている。
	美容室（店員）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、キャンセルが増えている。
なったり悪くなる	商店街（代表者）	・7月に入って、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えたことで、商店街の通行量が減少している。
	百貨店（企画担当）	・春以降、来客数、店頭売上共に、徐々に回復しつつあった。ただし、新型コロナウイルスの感染第7波の発生が報じられた7月下旬以降、来客数は急激に減少している。街の人出はそう変わらないが、当店の主要客層の外出は減ったように感じる。

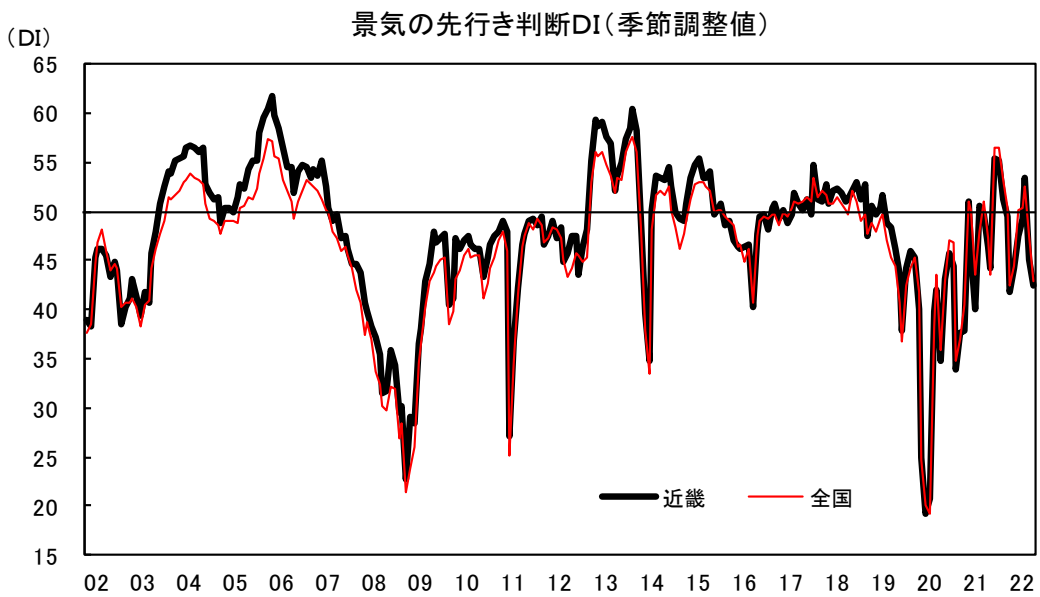
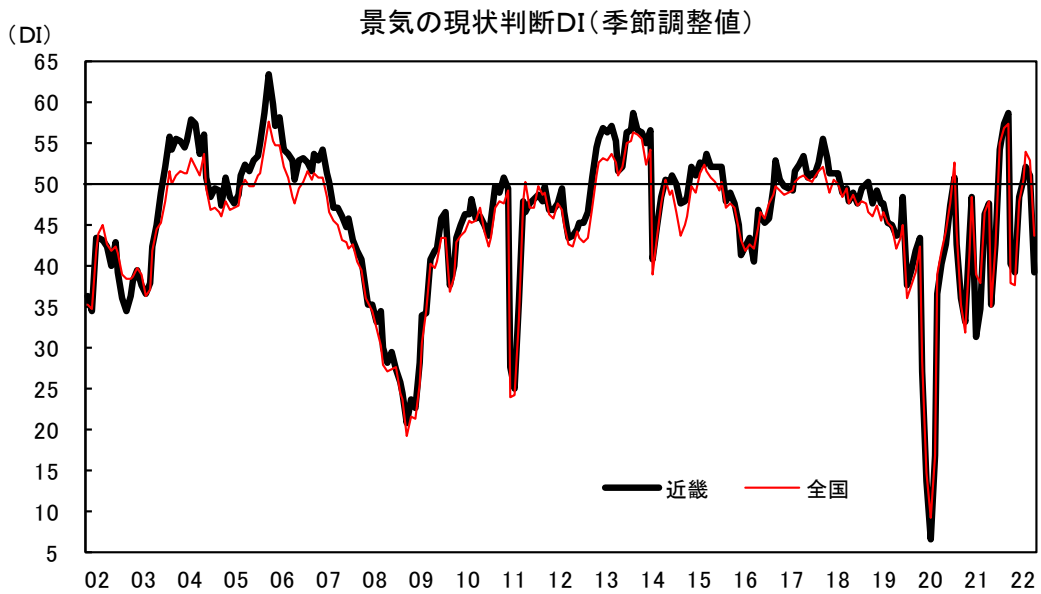
家計動向関連

やや悪くなっている

百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染がまた拡大してきたため、来客数が減少し始めている。食料品の売上は好調であるが、紳士服や婦人服の売上は低調となっている。
百貨店（売場マネージャー）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数が大きく減少している。その一方、ラグジュアリーブランドの価格改定前の駆け込み購入により、高額品は好調を維持している。
百貨店（販促担当）	・コロナ禍の感染の波が繰り返され、特に今回は過去最大規模となっているため、来客数が減少している。また、店での滞留時間も前年を大きく下回っている。年配者を中心に不要不急の買物を控え、目的買い以外は店に立ち寄らない傾向が顕著である。せっかくの各種制限のない夏休みが、ここへきて暗転し、集客策も打ち出しにくくなっている。
百貨店（営業推進担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、特に高齢者の来店が減少している。さらに、リベンジ消費も落ち着いており、来街者が減少している。
百貨店（店長）	・7月初旬は来客数も好調であったが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、減少が進んでいる。70歳以上の高齢者に対する、不要不急の外出自粛要請が出されると、近隣の府県でも動きが鈍化している。前年もこの時期から感染者が増えたが、今回の方が多くだけに警戒感が強い。
スーパー（店長）	・政府による行動制限はないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、衣料品売場などは以前と比べて来客数が減少傾向にある。
スーパー（店長）	・物価の上昇、新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数の減少や客単価の下落などが、直近の数字に表れ始めている。今後の動向は不透明であるが、客の購入意欲が低下し、実際の消費にも影響が出ると予想される。
スーパー（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて以降、年配の客が減ったように感じる。原油価格の上昇や気候要因で、野菜、果物共に価格が上がっているため、ますます客も少なくなっている。
コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増に伴い、中旬以降は来客数がかなり落ち込んでいる。
衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるとともに、来客数が減少し、営業時間を短縮せざるを得なくなっている。選挙のたびにコロナ禍がひどくなると感じる。雇用調整助成金の特例措置は9月末までとなっているが、延長が必要と考える。
家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの感染第7波により、来客数の動きに影響が出ている。生活に必要な食品スーパーなどは来店が増えるとしても、特に必要ではない商品への影響は大きい。
その他専門店〔宝石〕（経営者）	・ウクライナ危機の影響もあり、物価の上昇が進んでいる。それに加えて、最近では新型コロナウイルスの感染第7波の影響も出ている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・物価の上昇や新型コロナウイルスの感染第7波の発生など、明るい材料に乏しく、景気回復の足取りは鈍い。一時的にリベンジ消費はみられたが、新規感染者数が過去最多となるなど、先行きの不安感が強まっている。
その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数が減少しているほか、競合他社のリニューアルの影響も続いている。
一般レストラン（企画）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、売上が減少傾向となっている。ただし、2019年の水準は維持できている。
観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、高齢者に対する移動制限の要請が出たことで、徐々にキャンセルが増えている。
都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の新規感染者数が急激に増加し、宿泊客、レストラン客共に、動きが停滞気味である。
都市型ホテル（フロント）	・夏休みに入り、新型コロナウイルスの感染が一気に拡大した。従業員に感染者や濃厚接触者が増え、現場が回らなくなっている。客室単価を下げても、予約数は何とか横ばいの状態である。
旅行代理店（役員）	・県民割やブロック割の延長に伴い、需要は伸びていたものの、新型コロナウイルスの感染拡大によるキャンセルが続いている。年間で最大の繁忙期である夏に感染が拡大し、大打撃となっている。
通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響もあり、消費が大きく減少している。大企業のボーナス支給額は増えたようであるが、地方の企業業績は大幅にダウンしたままであり、ボーナスの支給にも期待できない状況である。
テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響か、来場者の客足が鈍っている。
その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・6月下旬以降、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加とともに、来客数が徐々に減少している。特に、年齢の高い客が反応している。
その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波によって団体客のキャンセルが出るなど、来客数に影響が出ている。
美容室（店長）	・新型コロナウイルスの感染が拡大し、スタッフの勤務状況や来客数の予約状況に影響が出ている。
住宅販売会社（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波の拡大に伴い、人の動きが鈍くなってきている。
その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波による影響が大きく、客への訪問予定が延期になっている。客が感染して当日にキャンセルとなる例や、社員の家族に感染者が出て、業務が停滞するといった例が、7月中旬頃から目立ち始めている。

家計動向関連	悪くなっている	一般小売店〔呉服〕(店員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているため、来客数が減少している。
		百貨店(売場主任)	・今月は土用の丑の日の23日までは、来客数、売上共に順調に推移していたが、23日～月末にかけて、新型コロナウイルスの感染第7波の拡大に伴い、極端に来客数が減少している。また、各種商材の値上げも影響し、買上点数の減少も顕著である。
		百貨店(マネージャー)	・新型コロナウイルスの感染第7波の発生や、猛暑といった来店のモチベーションを押し下げる要素が多い。祭りでにぎわった3連休以降、来客数、販売量共に大きく落ち込んでいる。
		百貨店(宣伝担当)	・3年ぶりに行動制限のない夏となり、7月上旬まではファッション関連アイテムを中心に好調な推移となったが、新型コロナウイルスの感染第7波の拡大で来客数が激減している。主要客である中高年層が外出を控えるようになれば、売上の減少に直結する。
		百貨店(売場マネージャー)	・7月中旬から、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、来客数が急減している。来客数の前年比は5月がプラス6.1%、6月がプラス1.5%、7月がマイナス0.1%と、前年を下回っている。また、60～80代のシニア客が更に減ったのに伴い、婦人服のミセス商品の売上が減少している。
		その他専門店〔宝飾品〕(販売担当)	・街の人の流れは前月と変わらないが、円安の進行に加え、新型コロナウイルスの新規感染者数が一気に増えるなか、消費の対象から宝飾品などは外れている。
		高級レストラン(スタッフ)	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、予約数が激減しているほか、キャンセルも増えている。
		一般レストラン(経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、予約のキャンセルや来客数の減少につながっている。客の声では、感染第7波の到来がいわれ始めてから、政府からの要請というよりも、会社からの要請で会食や外食が禁止されているという人が多い。
		一般レストラン(経営者)	・参議院選挙後に、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増え、来客数が激減している。
		一般レストラン(経営者)	・3か月前の4月と比較すると、第1週のレストラン利用者数は327人の増加で、単価は274円の低下、第2週は960人の増加と69円の低下、第3週は1116人の増加と78円の低下、第4週は1295名の増加と87円の低下となっている。景気は下向いている感覚であるが、実際には利用人数は増えており、単価が少し低下する形となっている。一方、7月には新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、席の間隔を気にしたり、店内の換気状況を気にする客が増えている。
旅行代理店(店長)	・全国旅行支援の延期に加え、新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加により、新規の申込みは減り、キャンセルが増えている。		
企業動向関連	なやまよくなる	食料品製造業(営業担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、客は行動を控えていないため、飲食店などへの飲料水の販売はやや増えている。
	変わらない	金融業〔投資運用業〕(代表)	・新型コロナウイルスの感染第7波の拡大が進んでいるものの、特に行動を制限することもなく、これまでと変わらない生活を過ごしている。これで感染症法上の新型コロナウイルスの位置づけが2類相当から5類相当に見直されれば、少しでも経済活動は活発化すると感じる。
		その他サービス業〔店舗開発〕(従業員)	・今年は梅雨明けが早く、観光需要の拡大を期待したが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えた影響もあり、予想したほど動きはない。特に、夕方以降の客足の引きが早くなっている。
	やや悪くなっている	繊維工業(団体職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、受注が減少している。
		繊維工業(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、催事での集客が悪化しており、他社との価格競争につながっている。経費が増えるなか、販売単価は上がらず、利益が減少している。売上は前年比で80%、利益は60%と、出張に行く経費が回収しにくくなっている。
		広告代理店(営業担当)	・コロナ禍の再拡大により、交通広告の申込みがまた落ちている。
	悪くなっている	経営コンサルタント	・回復傾向がみられた売上も、ここへきて悪化している。新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で客足が遠のくなど、あらゆる面で消極的な動きが見られる。
不動産業(営業担当)		・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、人出が減少している。それに伴い、店舗の解約が出て空室率が上がり、賃料も下がっている。	
		その他非製造業〔電気業〕(営業担当)	・ウクライナ危機と新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ダメージが大きい。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		20年												21年												22年											
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7											
現 状 判 断	近畿	40.2	42.6	47.4	50.7	42.6	36.0	33.2	43.7	48.5	31.4	34.7	46.2	47.5	35.3	42.7	54.1	57.3	58.7	40.3	39.3	48.4	50.6	52.1	51.0	39.2											
	(全国)	41.8	44.1	47.7	52.7	44.2	35.3	31.9	41.7	48.5	39.0	37.8	46.5	48.0	34.9	42.3	55.1	56.8	57.5	37.9	37.7	47.8	50.4	54.0	52.9	43.8											
先 行 き 判 断	近畿	34.8	43.2	45.7	44.4	33.8	37.6	37.8	51.0	46.0	40.0	50.5	49.7	46.3	44.3	55.4	55.1	51.3	49.4	41.9	44.2	47.5	49.2	53.4	45.0	42.4											
	(全国)	35.8	42.8	47.1	46.9	34.7	36.9	40.4	51.0	50.2	43.5	48.0	51.1	47.3	43.5	56.6	56.6	53.2	50.3	42.5	44.4	50.1	50.3	52.5	47.6	42.8											

※季節調整値